

名古屋市立大学・熊本大学における科学研究費補助金による研究活動の不正行為について

1. 案件概要

平成23年3月、名古屋市立大学及び熊本大学に、複数の研究者の研究活動において、画像の流用及び改ざん等が疑われるという申立書が提出された。

これを受け、両大学は調査委員会を設置し、協力しながら調査を行った結果、指摘のあった17編の論文のうち15編において、画像の流用及び改ざんが認められた。加えて指摘されていなかった4編においても改ざんが確認された。

これら19編の論文における不正行為には、すべての論文において責任著者であった岡嶋元教授の他、複数の研究者が関与していた。

また、被申立者1名が、画像の流用及び改ざん等を指摘された論文作成時に大分大学に所属していたため、大分大学においても調査が行われたが、不正は認定されなかった。

2. 調査経過等

平成23年	3月	7日	名古屋市立大学において調査専門委員会を設置 (以降、平成23年12月8日までに委員会を計14回開催)
平成23年	4月	12日	熊本大学において調査委員会を設置
平成23年	10月	26日	大分大学において研究不正特別調査委員会を設置(平成24年4月17日に調査結果を名古屋市立大学に報告)
平成24年	3月	19日	名古屋市立大学・熊本大学合同の記者発表
平成24年	5月		調査の過程で新たな疑義が発覚したため調査を継続
平成27年	9月	9日	調査委員会による調査結果報告

3. 調査結果の概要

【不正行為について】

(1) 岡嶋 研二 名古屋市立大学元教授(元 熊本大学助教授)

- ① 名古屋市立大学の調査において、岡嶋元教授が責任著者である論文8編(内6編の筆頭著者が原田元准教授であり、残る2編は当時の学生が筆頭著者であった。)について、他の論文からのデータの流用またはねつ造及び改ざんが認められた。
- ② 岡嶋元教授が名古屋市立大学に異動前に助教授として在籍していた熊本大学の調査においても、岡嶋元教授が責任著者である論文10編(筆頭著者は全て当時の学生)について、データの流用またはねつ造及び改ざんが認められた。
- ③ 岡嶋元教授が不正行為に直接関与した証拠は見つからなかったが、不正論文全てに関与しているのは岡嶋元教授だけであること、さらに岡嶋元教授が責任著

者である論文に同一の写真を使うことなどから、不正行為に気付いていないとは考えられないと判断した。

(2) 原田 直明 名古屋市立大学元准教授

名古屋市立大学の調査で、名古屋市立大学在籍中に9編（責任著者は全て岡嶋元教授）29項目でねつ造及び改ざんを行っていたと判断された。

【研究計画調書及び研究費の支出について】

- ① 岡嶋元教授を研究代表者若しくは研究分担者とするとする科学研究費補助金のうち、これら論文が研究実績報告書または研究成果報告書に含まれたものは3課題であり、不正行為と直接関係のある支出としては、不正行為があったと認められた論文の投稿料及び別刷代264,086円が支出されていたものの、不正があると認定された論文の投稿料及び別刷代の支出以外は、研究目的及び計画に基づき適正に使用されていた
なお、岡嶋元教授が研究分担者を務めていた、平成16年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（C））については、熊本大学文書保存規程に基づく文書保存期間の経過により、同課題に係る各種経理関係書類が残存していないため、不正論文と直接関連のある支出は特定することが出来なかった。
- ② 原田元准教授を研究代表者とする科学研究費補助金のうち、これら論文が研究実績報告書または研究成果報告書に含まれたものは2課題であり、不正行為と直接関係のある支出はなかった。

(関係研究課題)

(1) 岡嶋 研二 名古屋市立大学元教授（元 熊本大学助教授）

- ① ・ 研究課題名 アンチロンビンの臓器保護作用の新しい側面の解明とその敗血症治療への応用
・ 課題番号 17591891
・ 研究種目 基盤研究（C）

配分額	平成17年度	2,300千円
	平成18年度	1,400千円
	計	3,700千円

- ・ 不正行為と直接関連がある支出 なし

- ② ・ 研究課題名 ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドを用いた虚血性脊髄障害治療の理論的基盤の確立
 ・ 課題番号 20591652
 ・ 研究種目 基盤研究（C）

配分額	平成20年度	2,470千円
	平成21年度	1,820千円
	平成22年度	650千円
	計	4,940千円

- ・ 不正行為と直接関連がある支出 264,086円

- ③ ・ 研究課題名 生体侵襲反応の性差発現における知覚神経の役割
 ・ 課題番号 16591810
 ・ 研究種目 基盤研究（C）

配分額	平成16年度	2,300千円
	平成17年度	1,400千円
	計	3,700千円

- ・ 不正行為と直接関連がある支出 経理関係書類が残存していないため特定出来ない

※岡嶋元教授は本研究における研究分担者であるが、研究代表者と同機関に所属していることから、分担金の配分を受けていない。

(2) 原田 直明 名古屋市立大学元准教授

- ① ・ 研究課題名 免疫グロブリンの臓器保護作用の発現機序の解明と重症敗血症治療への応用
 ・ 課題番号 19592094
 ・ 研究種目 基盤研究（C）

配分額	平成19年度	2,210千円
	平成20年度	2,210千円
	計	4,420千円

- ・ 不正行為と直接関連がある支出 なし

- ② ・ 研究課題名 免疫グロブリンGのFcγ部分を用いた脊髄損傷治療戦略の
確立
・ 課題番号 21592312
・ 研究種目 基盤研究（C）

配分額	平成21年度	1,690千円
	平成22年度	1,300千円
	平成23年度	1,040千円
	計	4,030千円

- ・ 不正行為と直接関連がある支出 なし

4. 機関による措置

- (1) 不正行為があったとされた論文の取り下げ等

すべての論文について取り下げまたは訂正要請を行っている。

- (2) 機関における処分の状況

岡嶋 研二 元 名古屋市立大学教授 停職6ヶ月（平成24年3月19日）

※平成24年3月31日退職

原田 直明 元 名古屋市立大学准教授 懲戒解雇相当（平成24年4月18日）

※平成24年3月31日付退職